

プレス関係者各位

平素は「トルコ政府観光局ニュース」をご愛読いただきありがとうございます。「トルコ関連ニュースのお知らせ」をお送りいたします。トルコのニュース&イベントの最新情報をお役立てください。

 **レストラン、カフェ、バーなどが全面禁煙区域に**

トルコでは、2009年7月19日より禁煙法が施行されたことに伴い、レストランやカフェ、バー、居酒屋の店内でも、タバコは吸えなくなりました。住宅及び完全な野外においてのみ喫煙ができることとなります。喫煙者及び喫煙を許している者(事業者)へも高額な罰金が科せられます。

喫煙者が総人口の30%(2200万人)も占めるトルコでは、禁煙問題が長年にわたり重要な課題になっていました。エルドアン首相は、2007年以来禁煙法の実現に努力を続け、08年1月19日、禁煙の法案を提出。禁煙法導入の準備期間の18ヵ月を与え、今年7月の実施となったものです。健康志向の高まりから国民にも好評のようです。昨年より引き続き、電車、バス、フェリー、ドルムシュ(乗り合いタクシー)、飛行機などの公共の乗り物内も全面禁煙です。この禁煙法では、すべての政府関係ビル、銀行、オフィス、ショッピングモールなども禁煙地域に含まれています。

なお、ホテルでも喫煙できる部屋はありますが、ホテル業者は喫煙者用の部屋を用意する必要があります。ただし、標準に合う換気設備を設置すること、喫煙室を可能な限り同じ階にすることなどが求められています。 <http://www.havanikoru.org.tr/> (トルコ語)

(法律番号:5727、法律名:タバコ製品類の弊害対策に関する法律変更に関する法律、国会承認:2008年1月7日、官報発表日:2008年1月19日、官報番号:26761)

 **今年の JATA 世界旅行博にサフランボルの古民家を再現!**

今年の「JATA 世界旅行博 2009」は9月18日(金)、19日(土)、20日(日)の3日間にわたって東京のお台場「東京ビッグサイト」で催されます(18日は旅行業界、マスコミ関係者のみ)。毎年10万人もの観客を集めるアジア最大の旅行関係のイベントで、今年は昨年以上の150を超える国や地域のブースが並びます。トルコ政府観光局では、ビッグ・サプライズを用意しております。それはサフランボルの木造古民家のレプリカをトルコから運び会場再現するというものです。民家の大きさは両辺が6 X 4.5m=27㎡、高さ5m。2階建て構造の屋根つきで、トルコの伝統的民家の特徴を今に伝える形になっています。黒海に近いサフランボルは日本ではなじみが薄い町ですが、ヨーロッパでは「絵のように美しい木造民家の町並み」でよく知られています。ここは黒海と地中海を結ぶ交易の要衝で17世紀に発展。奥まった谷あい位置しているために、近代になって発展が取り残されましたが、そのおかげで最もトルコで伝統的な木造民家の町並みを残すエリアとして注目を浴びました。1994年、その町並みが世界遺産に登録されました。

サフランボルが位置するカラビュック県の知事、サフランボル市長、黒海地方の古都アマスィア県の文化観光局長が来日します。旅行博の間、トルコブースでは、定期的にトルコの伝統民族楽器「ズルナ(笛の一種)とダウル(太鼓)」の演奏があります。

プレス関係者各位

平素は「トルコ政府観光局ニュース」をご愛読いただきありがとうございます。「トルコ関連ニュースのお知らせ」をお送りいたします。トルコのニュース&イベントの最新情報をお役立てください。

 **イスタンブールを舞台にしたミステリー**

ハヤカワ文庫から「イスタンブールの毒蛇」(ジェイソン・グッドウィン著)が発行されました。物語の時代背景は、改革派といわれたスルタン・マフムート2世の18世紀前半。スルタンが病床に伏し、政情的にもイスタンブールには不安が渦巻いていました。主人公はヤシム。イスラム教に改宗した白人男性で、トプカプ宮殿の中奥付きの機密を担当し、今は半囁託だがスルタンや母後の信頼は厚く、悠々自適の生活を楽しんでいます。

風雲急を告げるイスタンブールでヤシムの友人の八百屋が何者かに襲撃される事件が起こりました。一方、ヤシムの元にはフランス人の考古学者が逃げ込んでくる。この「海千山千の」学者をかくまったおかげでヤシムはますます事件の深みにはまってしまう・・・

本書を読むと18世紀の宮廷の生活ぶりや、庶民の生き生きとした暮らしぶりがよくわかります。またヤシムの趣味が料理という設定から、あちこちに料理のレシピが登場。トルコ料理のガイド本としても面白く読めます。「なすのイマーム気絶風」とか宮廷料理の「スルトンの認めた味」などというメニューは読むだけで、食してみたい気分させられます。

著者のグッドウィンはケンブリッジ大学でビザンツ帝国の歴史を学んだだけあって、文章にはその博学ぶりが随所に出て来ます。前作「イスタンブールの群狼」(ハヤカワ文庫)では、2006年にアメリカ探偵作家クラブ(MWA)の最優秀長編賞を受賞しています。

 **ラマザン(断食期間)が始まります!**

来る8月21日～9月19日、ラマザン(断食期間 RAMAZAN)月が始まります。この期間は日中(日が昇ってから日が沈むまで)飲食をせず、共に空腹の苦しさを味わい、連帯感を強めると同時に貧困者の立場を知り、飲食物の大切さを再確認するというイスラム教徒の修行のひとつでもあります。トルコにおいては政教分離という国であるため、断食をするかしないかは個人の判断となっているため、実際にラマザン期間に断食をしないトルコ人も少なくありません。また、旅行者に断食が強要されることもありません。日没になり断食時間が終わるイフタル(Iftar)になるとようやく食事をとることができます。ラマザン月期間中には期間限定ともいえる食べ物も登場します。一般にラマザン期間中の食事は普段より豪華なメニューが取り揃えられます。お客さんを家に招待したり、外食したりします。各レストランやホテルなどではほとんどの場合イフタル ソフラス(断食明けの食事)として豪華なメニューを準備しています。断食というとネガティブなイメージを持たれている方もいらっしゃるかもしれませんが、飲食物への感謝の念を深めることができる貴重な一時期でもあるのです。

この期間、トルコにご旅行される方は、ぜひイフタル・ソフラスを召し上がってみてください。なお、9月19日(午後)～9月22日は、断食月が明けたことを祝うラマザン・バイラム(※断食明けの祭、別名:砂糖祭 シェケル・バイラムともいわれます)になり、各種お祭りが開催されます。